

糸満JC

[沖縄]

前身の「山南会」の流れをくみ 03年発足、交流をより活発に



いずれも「山南会」での活動の様子。沖縄県国頭郡の山里カルストを視察(上)、忘年会(中)、中国・蘇州での歴史研究(下)

糸満

JCは、沖縄本島の最南端に位置し、沖縄県では12番目にできた一番歴史の浅いLOMです。那覇JCがスポンサーとして1984年に誕生し22年目、法人化したのが98年で、8年目を迎えます。もともと漁業のまちとして有名な糸満市、農業を中心とする東風平町、具志頭村、2年前に村から市になったばかりの豊見城をエリアとしました。

エリア人口は、13万人くらいですが、わがLOMは、この20年間10名前後から30名未満の会員で運動を続けており、今年も11名からのスタートです。今までのOBの人数は、55名であり、03年にできた糸満JCシニア会会員

は、24名です。まだ活動としては、総会や納会に参加するだけにとどまっていますが、今後は現役とのゴルフコンペや観月会などを企画しています。

実は、糸満JCシニア会ができる前に、OBを中心とした「山南会」という組織が01年に設立されました。この組織は、単に現役を支援していくことだけではなく、南海の地に離散集合しながら山南王国を築いた先人達の足跡を鑑みながら、「温故知新」の言葉を礎に、これからの「オキナワ」の行末をよりよい方向に導くため、山南王国はもちろん琉球王国、さらに日本・中国・アジアのみならず世界の人類の営みの足跡を研究することを目的としています。毎月の例会で情報交

換を行い、実際に必要とあればその地へ行き研究をするというものです。

太田守会長が率いる山南会は、出席率もよくなってきたり、この組織のメンバーが、現役の主催する総会や納会、その他の事業への参加が増えてきたのが今の糸満JCシニア会をつくるきっかけになりました。

わが糸満JCシニア会は、伊敷清昌会長を筆頭にまだ4年目ですが、山南会をはじめ、さまざまな方法を試行しながらこれからも現役の活動を支援し、シニア会自身も和気あいあいと楽しくやっていきたいと思えます。

日本JCシニア・クラブ

沖縄ブロック担当幹事 上原幹士